

在安東日本領事館

本信寫送附先
公使 北平 奉天 吉林 長春
朝鮮總督 南東長官

S 1.1.1.0 - 17 1443.

0076

字

外務大臣男爵幣原喜重郎 殿
鮮内鮮文人衝突事件ト安東ニ於ケル鮮文人ノ状況
ニ關スル件
本件ニ關シテハ不取敢本月十六日附機密第四四號
掛信ヲ以テ報告置ク次第アル處昨今事態全ク平
靜ニ歸シタルニ付當地方ニ於ケル其ノ後ノ状況別紙
通統報申進ス

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1442

0075

機密第四四號

昭和六年 七月三十日

在安東

領事 米澤 菊

在安東
米澤 菊

詳細要略

昭和六年八月六日
別紙添附

鮮内中鮮人衝突事件ト安東ニ於ケル
鮮文人状況

(昭和六年七月二十四日現在)

鮮内ニ於ケル排華事件ハ當地ニ急遽數千ノ避難
民ヲ未集セシメタル結果トナリ流言蜚語ノ間ニ人
心漸ク動搖シ相當憂慮スヘキ状態ヲ呈シタルカ對
岸並當地ニ於ケル中日官憲ニ於テ共助ノ精神ニ
基キ完全ニ連絡ヲ執リ徹底的ニ取締クタル為大體
ニ於テ難關ヲ平穩裡ニ終過シツ、アリタル次第ハ既
報ノ通ナル處爾未概シテ陰悪ノ空氣ナク十一月頃ヨ
リハ避難民中弗々鮮地ニ歸還スルモノ現ハレ特ニ我
方ヨリ避難華人ニ寄贈シタル慰安金ハ我方ノ同情ア

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17

1444

0077

ル誠意ヲ先方ニ披瀝シタル結果トナリ避難民ノミナ
ラス一般居住民モ精神的安堵ヲ得テ愈一般ニ
空氣ヲ鎮靜セシメタリ惟中回側新面鏡ノミハ事
件當初ノ論調ニ反シ責任ヲ我方ニ歸セシムル抹相
當硬化シ未ツタル觀了茲ニ右経過ノ大要ヲ摘録スレ
ハ次ノ如シ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17

1445

0078

一 附屬地ノ状況

(一) 一般状況

一時ハ盛ニ傳ヘラレタル流言蜚語モ中日官憲ノ
取締宜シキヲ得テ其ノ無根ナルコト判明スルニ至
リ民心漸ク平靜ニ歸シ向々小競合的ノモノア
リタルモ何レモ極メテ輕微ナルモノニシテ十一月ニハ
對岸新義丹ノ平靜ニ歸シタルヲ固キ約二十
名ノ避難民渡鮮ニタルカヌクハ勞働者及魚菜
類行商ニシテ店舗ヲ有スルモノハ試驗的ニ少數
單独渡鮮シタルニ過キス此等ノ渡鮮者中約
半數ハ新義丹ニ留シタルモ殘餘ノ半數ハ
夕刻歸安ニ來タレリ

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 - 17

1446

0079

(二) 發生事件

十四五日ニ至リテハ殆ト平常ニ復シ小競合等モ
發生セサルニ至リ特ニ附屬地ト中國街境界
方面ハ當初ヨリ警戒ヲ嚴重ニシ居タリシカ商肆
中ニハ其ノ營業上ニ災クル影響甚大ナリトテ寧
口警戒ノ緩和ヲ希望スル向スラ出テ房々一般ノ空
氣モ平靜ニ向ヒタルヲ以テ十一月ヨリハ事件發生以
來全署員ヲ以テセル警戒ヲ約半數ニ減シモ格
別不安ヲ感スルコトナク避難者モ引續キ鮮地ニ
復歸シ別般ノ事故ヲモ見ス逐日平穩ニ向ヒニ
十日頃ハ殆ト避難者皆無トナレリ

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 - 17

1447

0080

結果漸次平靜ニ向ヒ十一日頃ハ避難民カ踏傍ノ民衆ニ對シ誇大的宣傳ヲ爲スカ如キ状態ハ殆ト皆無トナリタルモ一般民心ノ鮮人ニ對スル反感ハ相當強カリシヲ以テ鮮人カ單獨中國側ヲ通行スルコトハ猶不安ヲ感セラレタリ然レトモ鮮人ヲ顧客トシテ取引セル華商等ハ早ク常態ニ復セムコトヲ希望シ鮮人來ルトキハ寧ろ口歡迎の態度ヲ示スニ至リタルヲ以テ十三日頃ヨリハ鮮人附屬地中國街向ノ取引ハ漸次相當數ニ達シ來リ新義州及中ノ島ヨリノ避難民ハ晝間ハ殆ト鮮地ニ復歸シテ僅カニ夜間ノミ少数歸安スル状態ニ至リタリ次テ九道溝方面ヨリ附屬地ニ避難シ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17

1449

0082

ルモノ三件被害者鮮人男三名ニシテ内一名ハ後頸部ニ輕傷ヲ負ヒ治療ヲ受ケタルモ他ハ負傷ナシ十二日ハ二件被害者鮮人二名ナリシモ負傷無ク十四日六道溝ノ鮮人ハ中國人ノ爲態等ニテ殴打セラレ微傷ヲ受ケタルモ爾來暴行事件發生セズ尚十一日ニ至リ初メテ鮮人カ中國人ニ對シ暴行並ニ投石シタル事件三件發生シタルク被害中國人四名何レモ負傷無ク又十二日ニモ一件發生シタルカ負傷ノ程度ニ至ラス

中國側ノ状況
 (一) 一般状況
 中國街モ公安局ノ總動員ニ依リ嚴重取締シタル

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17

1448

0081

タル鮮人等十六ハ復歸方希望シタルモ猶鮮人ノ
 通行スルモノヲ見レハ動モスレハ暴拳ニ出ントスルモノ
 モ下クタルニ依リ公安高ト連絡ヲ執リ十六十六ノ西
 日ニ亘リ先ツ試ニ成年以上ノ男子ノミヲ歸還セシメ
 タルニ先方ノ保護警戒宜シキヲ得今尚何等ノ迫
 害ヲ受ケス此ノ任ニ推服シ特ニ事件ノ發生スルコ
 トナキニ於テハ鮮人ノ通行ハ勿論婦女子ノ復歸
 安心居住ノ日モ血カルヘント思料セラル尚中國側ニ
 收容サレ居タル避難民ハ二十二日頃ニハ残留者僅々
 四百名トナリタルヲ以テ此ヲ戲場一ヶ所ニ纏メ次テニ
 十四日汽船ニテ全郡山東方邊境ニ收容所モ閉鎖
他方宿屋又ハ避難民ノ家ニ食シタル者モ同日迄ニ何レモ鮮地ニ歸還シ得ルコト見サレシ
セシレ此クテ一時雜踏ヲ極メタル避難民モ茲ニ全ク影

在安東日本領事館

0083

S 1.1.1.0 - 17 1450

(2) 發生事件
 十一日中國街ヲ通行ノ一鮮人及下流地方ヨリ安東ニ
 来リ中國街ニ上陸セル鮮人三名ハ群衆ノ為殴打
 セラレタルモ何レモ外亡負傷無ク又安東中學校日本
 人學生等三人ハ鮮人ニ向直ヘラレ暴行ヲ受ケト
 シタルモ逸早く逃レテ事ナキヲ得タリ十四日四名ノ
 鮮人群衆ノ為殴打セラレタルモ直ニ公安局迄警ノ保
 護ヲ得負傷無ク十五日鮮人三名中國人ノ為殴打セ
 ラレタルモ救救出所警官ノ急取ニ依リ負傷スルニ
 至ラス何レモハ事件ニ過キス
 管内各地ノ状況
 (1) 寬甸縣

在安東日本領事館

0084

S 1.1.1.0 - 17 1451

朝鮮人會寬甸縣支那長ノ情報ニ依リ最近此地
 方ニ於テハ中國人カ朝鮮人ヲ見ル都度高麗房子
 打殺セヨト叫ビ朝鮮人ニ對スル壓迫ハ倍旧ノ状態ニ在
 リ一彼朝鮮人ハ性ニ居タル折柄去ル十二日安東縣ヨリ
 來タレル一中國人カ此地居住者ニ對シ「新義州營林署
 ニ於テ労働ニ從事シ居タル同胞數百名中大半ハ
 朝鮮人ノ為打殺セラレ其ノ殘餘ハ全部安東ニ驅
 逐サレ約三百名隊伍シテ居住者ニ復讐スヘク
 安東ヨリ寬甸縣與地方ニ向ケ出發シ十二日ハ既ニ
 全縣第七區大江口ニ到達シ此地朝鮮人三名ヲ殺害
 シタルカ十三日當地ニ到着ノ豫定ナリトノ謠言ヲ
 傳ヘタル為附近朝鮮人ハ極度ニ恐怖シ十三日午前

在安東日本領事館

BII 0085

S. 1.1.1.0 - 17 1452

中婦女子ハ全部平壤昌城郡昌廿面方面ニ避難
 セシメタリト云フ
 (2) 三道東頭
 既報ノ通當初ハ格別不穩ノ形勢無カリシカ茲
 ニ流言盛語行ハルニ至リ當地居住者人四戸
 ニ十五名ハ一時婦女子五名ヲ對岸舞地ニ避難
 セシメタリ但シ其後漸次平靜ニ歸シ目下ハ無事
 農耕ニ從事シ居テリ
 (3) 掛綱溝
 同地ニテハ此ノ際朝鮮人ニ暴行ヲ加ヘタルモノハ二
 十年ノ懲役ニ處ス旨ノ佈告貼付シアリト傳フ
 (4) 高麗内(安奉路線)

在安東日本領事館

BII 0086

S. 1.1.1.0 - 17 1453

高麗内居住鮮人金珂宗外一名ハ十一日午後農
耕ニ行クニトシテ中國街ニ差シ掛クタル際三名ノ
中国人ニ暴行殴打セラレタルモ負傷ナシ

(5) 輯安縣

本縣下ニ相當動搖ノ兆アルコトハ既報ノ通ニシテ
今縣ニ於テハ城内鮮農耕作ノ為家主ヲ招致
シテ驅逐策ヲ恊議シ或ハ鮮人家屋ヲ夜襲ス
ル等ノ謠言行ハレ婦女ニシテ既ニ鮮地ニ引揚ケタ
ルモノアリタルモ未タ具體的壓迫事實無カリシカ
最近縣長ハ鮮人代表ヲ招致シテ安全ヲ保
スル旨傳フル所アリ市民學生等モ耕作人ノ行
為ニ非ツルモノ無シ

在安東日本領事館

0087

S 1.1.1.0 - 17 1454

(6) 通遠堡

同地我派出張管内村長ハ移住鮮人ニ對シ去
ル九日以来公安分局長ノ命ナリト連日ノ如ク之
近方ヲ要ホシ居ルヲ以テ我出張警官ヨリ公安
局長ニ對シ保護方交渉中ナリ

(7) 莊河縣

當地公安局長ハ去ル八日管内關係隊長及分
局長ヲ招集特別會議ヲ開キ管内居住日鮮
人ノ保護取締ニ留意スルト共ニ不良分子ノ妄動
ヲ戒メ外交向題ヲ惹起スヘカラスト刻令シタル趣テ

(8) 鳳凰城

在安東日本領事館

0088

S 1.1.1.0 - 17 1455

四 避難民ニ對スル我方ノ寄贈

九日當地職業中學校長ハ本校學生ニ對シ朝
鮮ニ於ケル被害事件ヲ記シタル中國新聞ノ宣傳
文ヲ其ノ佐說明シ「諸子ハ郷里父老ニ此ノ忍ノ
ヘカラサル國取事件ヲ告ケ民衆ヲシテ輿論ヲ惹
起セシメ擧フテ外敵ニ當ラサルヘカラス」等ニ
宣リ訓誥セリトノ報アリ又安東ヨリ鮮人大擧擧
撃ニ來ルヘシ等ノ流言蜚語モ行ハレ居ル趣ナリ
一時ニ數千未集セル當地避難民ニ對シ當地中
國街居住邦人ハ小洋五百元ヲ又附屬地日本人
有志ニ於テモ小洋一千元ヲ夫々慰問金トシテ中
國側ニ寄贈シタルカ右カ我方ニ於テ官民共誠意

在安東日本領事館

BII

0089

1456

S 1.1.1.0 - 17

BII

0090

五 民國側輿論

ト同情ヲ有スルニトシテ如實ニ具現シタルモノトシテ中
國官民ニ對シ精神的ニ極メテ良好ナル印象ヲ與
ヘタルハ爭フヘカラサル所ニシテ王縣長カ十三日本
官末訪ノ際右我方ノ誠意ニ對シ中國官民ヲ代
表シテ衷心謝意ヲ陳ヘタル次第ハ曩ニ電報セル
通ナリ
尚附屬地ニ避難シ來タル鮮人ニ對シテモ朝鮮
人會ヲ経テ今時ニ金百円ヲ贈レリ

在安東日本領事館

1457

S 1.1.1.0 - 17

筋合ニ非サル旨ノ新聞記事現ハルニ及ビ中
國側各団体及新聞等ハ躍起トナリ我方ニ責任
ヲ歸セシムル様宣傳且誇大的記事及運動現
ハルニ至レリ

(1) 避難民慰問代表ノ言動

安東避難民ニ對スル慰問代表タル奉天結團
聯合會代表三名ハ安東避難民收容所ニ於
テ次ノ如キ演説ヲ為シタリ
避難民ニ對スル中國側各機關ノ周到ナル措置ヲ賞
揚シ之ニ對シ感謝スヘト述ベ若シ鮮人ニシテ日本
人ヨリ如斯暴状ヲ加ヘラレタルトキハ如斯キ優待
ヲ受クルニト能ハサルハ勿論避難スヘキ場所ナ

在安東日本領事館

0091

S 1.1.1.0 - 17 1458

ヘナカルヘシ名位ハ今回ノ事件ニ際シ第一鮮人
ヲ使喚シテ我等ニ加害セシ者ノ誰ナルヤヲ知ルヲ要
シ第二國民ハ一致團結シ有時ノ際國家ノ犧牲ト
アルヘシ目下我國ハ幼稚時代ナルヲ以テ萬事一
擧妄動ヲ戒ムニ第一日本警察官ハ世界中文
明進化ノ警察ナルニ我等華僑ノ保護ニ努カセサ
ルノミナラス鮮人ニ暴行ヲ敢行セシメタリ要スルニ
本件ハ世界ノ公論ニ訴フヘク政府モ輕率ニ處セサ
ルヘキヲ以テ各位ハ沈靜ノ態度ヲ保持シ協力一
致シテ國家ノ後指トナリ円満ナル目的ヲ達成スル
コトニ努カスヘシム

西國民外交協會安東分會ノ宣傳

在安東日本領事館

BII

S 1.1.1.0 - 17 1459

0092

國民外交協會安東分會ニ於テハ七月十二日總商會内ニ於テ時高ニ開スル會議ヲ申催シ次ノ如キ敬告書ヲ發シタリ

鮮民ノ華僑慘殺事件ニ對シ全國同胞ニ敬告スルノ書

「全國同胞ニ告ク萬宝山事件ニ因ラ茲シ全鮮ニ於ケル華僑同胞ハ慘殺焚掠ノ奇禍ヲ蒙リ朝鮮各地駐在領事及各商務會ノ報告ニ依ルニ誠ニ人ヲシテ指髮ヲ禁スル能ハサラシムル者アリ安東ハ僅カニ鴨綠江ヲ隔ツルノ境地ナラテ以テ其ノ梗概ヲ畧述シ對策ヲ共謀セントス果シテ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ華僑同胞ノ幸

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 17 1460

0093

甚ノミナラス全國同胞ノ幸甚ナリ今更ノ暴動事件ハ實ニ萬宝山向題ヲ針小棒大ニ宣傳シ日本人之ヲ使嗾セシタメ華僑此ノ災禍ヲ蒙リタルモノニシテ日本側ハ充分責任ヲ負担スルコトハ毫モ疑ノ余地ナシ然ラセテ七月一日ヨリ暴動ノ兆候ヲ呈シ五六兩日ニ至リ愈々激烈トナリ平壤仁川等ニテ死者百余名負傷者十余名ニ達シ家屋ノ焚燒器具ノ破壞セラレタルモノ其ノ數ヲ知ラス其後十日ニ至リ各地領事及商務會ヨリノ報告ニ平壤仁川等各處ニ於ケル死者ニ百余名ニ達セリト云ヒ安東ニ避難シ来リシ者七日ヨリ十日迄約三千二百余人(平壤、宣川、定州ヨリ来ル者少シ)其他親

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1461

0094

威知己方ニ援セル者其ノ數ヲ知ラス尚京城萃
 僑代表ノ報告ニ仁川ニ於ケル三日ノ暴動ハ午後
 八時ヨリ翌日午前四時迄八時向ノ長時間暴行ノ
 限リテ盡シタルカ其ノ行動ハ實ニ整然トシテ警
 笛ヲ以テ追追セリ、而モ日警ハ之ヲ監視シテラ
 気附カサルカ如ク装ヒ舞人ノ引揚ケタル後始メ
 テ取締解散セシメタリ日本軍警ハ原未訓練
 潮度迅速ナルニ何ソ斯ノ如キ緩漫ナルコトアラン
 ヤ其ノ真意ハ自ラ明ナリ京城方面ハ數十ノ舞
 人ニ包圍セラレタルモ領事ノ交渉ニヨリ其ノ家屋
 搗坏ノ災ハ免レタルモ器物ノ掠奪損失ハ名状ス
 ヘカラストス 茲代表ノ報告ニヨレハ平壤ハ四日數

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1462

0095

午ノ暴徒ニ襲ハレ家屋商岳ノ搗坏甚シク慘
 殺セラレタル者二百二十三人重傷者六百余名其ノ
 尤モ甚キハ嬰児ヲ劈殺シ妊婦ヲ解剖スル等
 其ノ酸鼻ハ實ニ筆舌ノ及ブ所ニ非ス又遭難屍
 体ヲ檢スヘク代表ノ出張セシ際ハ故意ニ自動車ヲ
 以テ四十分向ノ道程ニ四時向ヲ費シ其ノ慘殺ノ証
 據ヲ掩滅セシムル等實ニ怒髮天ヲ衝カシムル者
 アリト又萬岳山事件ハ地方向題ナルニ軍警
 ヲ派遣シテ之ヲ操縦シ且舞人ヲ使喚シテ華僑
 ヲ襲撃セシメナカラ之レカ責任ヲ忌避ス公理ヲ無
 視スルコト此ヨリ甚キハナシ之ヲ忍ハント欲スルモ
 忍フ能ハス全國一致正義ヲ主持スヘシ外交當局ハ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1463

0096

23

白本政府ニ對シ嚴重抗議ヲ提出スヘク全國同胞ハ誓テ其ノ後盾トナリ交渉勝利ノ目的ヲ達セサレハ乙マス

茲ニ其ノ所見ヲ附陳スヘシ

一 華僑同胞今次ノ被害ニ就テハ國民政府ヨリ調査員ヲ派シ駐鮮各地領事及中華商會國民黨支部ト立會調査ヲ遂ケ將來ニ於ケル損害賠償交渉ノ根據トナスヘシ

二 幣原外交政策ノ院策以來東北ニ對スル為朝鮮ニ増師ニテ戰備ヲナシ鐵道交渉ヲ急進解決セシメムトスルハ田中内閣ノ政策ト合謀ナリ並ニ鮮人ヲ以テ先鋒トシ經濟ノ侵畧ヲナス

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1464 0097

24

須ク双方ノ利益ヲ計ルヘキニ唯一方ノ利益ノミヲ謀リ我國民族ハ之ヲ默視スル能ハス其ノ對策トシテ鮮人ノ入境ハ從來ノ如ク緩漫放任的ナル能ハス其ノ利害ニ就テハ日本自ラ之ヲ及省ニ強横主張ヲ約衷レテ公理ニヨルヘキナリ

三 朝鮮ト中國トハ何レモ被壓迫民族ナルヲ以テ鮮人ハ他人ニ利用セラルヘカラス敗ルレハ即チ自ラ犧牲ニシテ勝モ亦毫モ得ル所ナシ況ヤ鮮人ノ東亞省ニアル者ニ百万ニシテ鮮地華僑同胞ハ十萬余ニ過キス其ノ荒雲壞モ當ナラス若シ全部敵國セシムルトセハ之ヲ容ルノ余地ナク此種ノ暴行ハ深ク其ノ非ヲ悔ヒ速ニ自處スヘキナリ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1465 0098



四本要木發生ノ原因ハ日本側舞人ヲ使喚ニ萃テ屬
 ヲ驅逐慘殺セル者ニシテ其真相ヲ世界ニ發
 表ニ公平ノ批判ヲ待テ日本人ヲシテ中華民
 族ヲ輕侮スヘキ者ニ非ラサルモ知ラシメ全
 國上下一致シテ理ニ據リカ羊スヘク萬宝山事
 件ハ曲日本側ニ有リ日本人ノ舞人ヲ使喚ニ重
 大慘業ヲ惹起セシハ吾界強之ヲ認ムル所ニシ
 テ日本國內明達ノ士ニ於テモ非議ヲ提唱セリ
 今回ノ舉ハ何等益ヲスノミナラス其ノ文明國
 ノ榮譽ニ重大ノ損失アリ吾人ハ本業ニ對シテ
 鎮靜態度ヲ持シ嚴重交渉ヲ提出シ勝利
 ヲ得サレハ己マス若シ日本人頑強ニシテ之ヲ悟

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 17 1466 0099

ラサレハ即チ有効手段ヲ採リ之ト對抗スヘク
 全國民衆一致團結シテ奮闘スヘキ以上聊カ本
 會ノ愚見ヲ披擲スルモノニシテ我國民ハ一致團
 結固權ヲ維持スヘシ本會ハ安東民衆ト共ニ誓
 テ其後援ヲナスヘク之レカ實現ヲ希望シテ止
 マサル次第ナリ云々
 遼寧國民外交協會安東分會謹啟

(3) 新聞論調

安東市報

當地安東市報ハ縣政府ノ機關紙ニシテ從來
 排日的記事ヲ掲載シタル事稀ナリシカ他ノ
 團體及新聞ト歩調ヲ揃ヘキ排日的記事

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 17 1467 0100

ラ掲載スルに至レリ即チ十五日ノ同市報ハ「鮮奴
 ノ排華ニ對スル意見」ト題シ次ノ如ク論セリ
 「鮮奴ノ排華熱程度ハ極メテ高ク不祥事件發
 生ニ就キ觀察スルニ彼等鮮奴ハ技術的手段ヲ終
 驗ナク如斯無意識ノ暴動ヲ充シ無窮ノ後悔ヲ
 遺ス誠ニ愚計言フニ足ラス汝等若シ萬宝山事件
 ノ反感ニテ排華暴動ヲ惹起セリト稱スルモ其ノ
 萬宝山事件ノ真相ヲ詳知セルヤ誇大ノ宣傳ヲ
 以テ眞トスルヤ汝等ハ更ニ一考スヘシ汝等ハ大
 憲ニアラス汝等ハ今後完全ニ中國ヨリ退出スルコ
 トヲ得ルヤ嗚呼汝等ハ七國ノ奴隸トナリタルノ
 ミナラス尚之ヲ以テ不足トセリ今後汝等ノ未踏ヲ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1468 0101

省ルヘシ高麗棒子(侮辱ノ語句)汝等ハ後日ヲ省ル
 ベシ云々
 又十六日ノ公報ハ「鮮奴ノ暴行事件ニ對シ再度進
 言」ト題シ次ノ如ク論セリ
 「朝鮮要徒ノ熱烈ナル排華事實ハ今日ニ於テ實
 顯セリ國交歴史上又一個ノ深刻ナル汚點ヲ増セリ
 日本側ノ説ニ依レハ本件ニ對シ唯遺憾ノ意ヲ表
 シ而モ切實ナル責任ヲ負擔セス其第一理由トスル
 處ハ萬宝山事件ハ中國側之レヲ惹起セリト第
 二理由ハ鮮民ノ暴動ハ迅速ニシテ之ヲ鎮壓スル
 能ハサリト尚台灣島民ノ日本人ヲ殺害セシ事
 實ヲ証トセリ而シテ吾人ハ萬宝山ハ中國地内ニア

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 17 1469 0102

ルヲ認ムルモ但シ事件ヲ發生セシメタル責任ハ却
テ鮮日人双方ニアリトナス事實具備スルニ豈能
ク之ヲ朦朧スルコトヲ得ニヤ第一鮮人ノ暴動ニ就
テハ發生以前ニ方法ヲ以テ之ヲ豫防セサリシヤ暴
動後引續キ三四日間屠殺ヲナスニ何等此力ヲ使
フ用ヒス坐シテカラ之ヲ見エヤ要スルニ其ノ責任ハ何
レニアツヤ向ハスレテ明ナリ尚吾人ハ更ニ質問ス若
シ鮮人ノ暴動ヲ萬宝山事件ノ反感ナリトセハ畢
意萬宝山事件ノ真相ハ如何ト、鮮人ハ何ニ依リテ
之ヲ知レリヤ所謂「鮮人屠殺……」等種々無稽ノ
宣傳ハ當然日本新聞其ノ責任ヲ負擔スヘキモノ
ニ外ラスヤ尚日本側ノ再考ヲ請フ若シ此次鮮

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 - 17 1470 0103

人ノ暴動事件ニシテ日本人數百名殺害サレ無數
ノ財産ヲ損失セハ如何ナル處置ヲ講スルヤ只遺
憾ノ意ヲ表スルノミニテ解決スルヤ須ク平靜ノ態
度ヲ持シ正義ノ説ヲナスヘシ此次惨案ノ背景者
ハ必ス其ノ責任ヲ負擔スヘキモノト思料ス

〔四〕東邊高工日報

十五日ノ東邊高工日報ハ社説欄ニ於テ「朝鮮事
件ニ對スル外交上ノ準備」ト題シ次ノ如ク論セリ
「朝鮮」於テ爾華僑慘殺事件發生以來日本人
ハ露骨ノ手段ヲ弄シ鮮人ヲ酷使シ屠殺ヲ肆
ニセリ故ニ鮮人ハ甘シテ傀儡トナリ殺人放火其命
スル處ヲ敢行セリ最近避難未安セル者ノ報告ニ

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 - 17 1471 0104

31
 成レハ確實ナル者ニ三百余人ニシテ財産ノ損害ハ平壤
 一ヶ所ノミニテ四百萬元ヲ下ラス其他モ此ノ數額ニ止マ
 サルニトテ斷言ス此種ノ慘業及將來ニ對シ吾人ハ
 外交當局ヲ督促シ日本ト嚴重交渉ヲ開始シ最
 後ノ勝利ヲ得ンコトニ付キ既ニ詳述セリ今日國民
 ノ注意スヘキ者ハ一面ニ於テ國民政府ニ對シ避難
 同胞ノ救済ヲ請ボシ一面全國ヨリ義捐金ヲ募集
 シテ之等避難民ノ飢饉ヲ救済シ且外交上
 ノ準備トシテ相當ノ根據ヲ得ルモノ國民政府ハ尋
 常ノ家ヲ破壞シテ其ノ慘害現場ニ就キ日本側責任
 者ト共同調査ヲナスヘク其ノ重要事項ハ尤ノ如シ
 甲華僑同胞ノ生命損失ニ就テハ各該地領事館

在安東日本領事館

S 1:1.1.0 17 1472 0105

32
 ニテ華僑ノ姓名族籍及居住地ニ對シ相當ノ登
 記ヲナシタルヤ否ヤ被害者屍体埋葬箇所ニ
 就キ之レヲ明確ニスルコト被害場所及血痕一切ノ
 衣服類ハ之ヲ保存又撮影シテ証明ニ資スニト
 朝鮮各地ノ領事ハ被害者ノ家族ニ之レヲ通知
 シ慘業發生以後速ニ領事ニ報告セシメ以テ參考
 ニ資スヘシ
 乙華僑同胞ノ財産損失ニ關シテハ商品及一切ノ家屋
 財産ヲ掠奪燒毀セラレタルモノハ確實ノ調査ヲ
 為シ又ハ撮影シテ証明ニ資シ且帳簿ヲ燒却掠
 毀セラレタル者ハ被害者ヨリ豫メ届出ラナシ証明
 ニ資スヘシ

在安東日本領事館

S 1:1.1.0 17 1473 0106

丙以上二者ノ報告處理ニ附シテハ各地領事館内ニ臨
 時登記事務所ヲ附設シ慎重ニ處理スヘシ近來
 各新聞ノ報道ニ依リハ日本側ハ歷年中國人々舞
 人ヲ壓迫セシメ依リテ之ヲ殺生セシメタルモノトシテ其
 ノ責任ヲ負担セスト曰ク制止ノ法ヲ示ト然レハ之
 ヲ既往ニ徵スルニ二種ノ質問事項アリ一若シ果シ
 テ制止ノ法ナキヤ朝鮮獨立党ノ企圖ニ對シ軍警
 ハ即時嚴重取締ヲ加ヘ末夕一度モ疏虞ヲ来シタ
 ルヲ聞カス一若シ果シテ暗中之ヲ驅使シ一旦禍災
 生スルモ猶ホ舞人ノ自由行動ナリト稱スルヤ即チ
 華僑ノ慘殺財産ノ損害ニ就テ對岸ノ火災視シ
 死傷者ハ華僑ナリ損失ハ華僑ナリ日本人ニハ何等

在安東日本領事館

爾奈ナシト稱ス公理何處ニアリヤ
 今回ノ慘業發生ニ就テハ相當ノ取締ヲ暗中之ヲ
 驅使セルヲ以テ損害賠償ヲ要求スルハ勿論此ノ
 事項ヲ世界列強ノ公判ニ委スヘシ華僑保護ニ就キ
 日本側ニ其ノ實力ナキヲ以テ中國軍警ヲ派遣ス
 ルトスルモ即時之レヲ撤退セシムヘシ原來中國人
 ノ寄留者ニ對シテハ當然我國ヨリ軍警ヲ派遣シ
 テ保護スルヲ正當トス全國民一戮力辛スヘシ今回
 ノ事件ハ事實ノ証明ニ依リ其ノ曲日本側ニ在
 リ我當局ハ總健態度ヲ持シ各地今胞ノ舞人
 ト接觸スルノ場所ニテハ必ス復讐手段ニ出ツル
 コトナク交渉前途金ヲ不利ニ導クカ如キコトナラシ

在安東日本領事館

今日全報ハ「平壤避難民ノ慘状」ト題シ暴行
 舞人中ニ日警加ハリテ指導セリトテ次ノ記事ヲ掲
 ケ居レリ
 七月五日午後七時舞人三十名許リ各自棍棒石
 塊ヲ持テ華高料理店ヲ襲ヒ中国人ハ追窮セラ
 レテ三階ノ窓ヨリ飛ヒ逃レタルヲ筆頭ニ各商店ハ
 一律閉鎖セリ於茲數万ノ舞人ハ破壊、慘殺ノ暴
 虐ヲ肆ニシ初メタリ一家ヲ完全ニ破壊シ終レハ
 舞令ニテ行動ヲ制スルモノアリテ暴民等ハ一律
 停止シテ同時ニ拍手ニ更ニ次ノ家ニ追撃シ舞令ニ
 應ミテ行動ニ緩リ笛聲ニ依リ停止セリ翌日舞

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0. 17 1476 0109

細調査ニタルニ此ノ暴民中ニハ日警其ノ向ニ在リ
 テ指導シ居タリ六日ハ消防隊分シ消防署
 舊口等ヲ以テ未破壊ノ商家ヲ全部破壊シ高
 店内ノ「ストック」ハ自動車或ハ人力車ニテ運ヒ一空ニ歸
 レタリ六日午後ニ至リ日警ハ漸ク華僑ヲ警察
 署ニ收容シ残餘ハ「アンペラ」小屋ニ收容シ外出ヲ許
 サス屍骸ハ平壤病院ノ一隅ニ運ヒ支那人ノ探
 視スルヲ禁シ次テ市外ノ山上ニテ處ニ埋設セリ
 八日ハ日警聲ノミヲ大ニシテ舞人ヲ拘捕セリ十日
 廳當局ハ告示ニテ安東ニ行クコトヲ許サス既
 購ノ切符ヲ拂戻シ鎮南浦ヲ船ニテ芝罘ニ送レ

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0. 17 1477 0110

十七日ノ全報ハ省城各界代表款項ヲ携ヘ未安
 シ避難同胞ヲ慰問ストト題シ次ノ如ク論ス
 省城各界右法團ハ在韓同胞ノ避難民ニ對シ特ニ
 現大洋三千元ヲ携帶シ教育會主席三加一工會
 主席盧乃賡新南公會主席趙而時三人ヲ代表
 トシテ未安慰問セシメ該代表等十六日朝未安ニ
 先ツ第一收容所ニ至リ被害同胞ヲ慰問ス記者
 ハ此ノ報ヲ聽キ總商會東君ト共ニ第一收容所ニ
 至リ次イテ第二第三第四第五ノ各收容所ヲ廻リタル
 カ各代表ハ避難同胞ニ對シテ今次未安ノ主旨ハ
 全省各界同胞ヲ代表シテ現大洋三千元ヲ携帶
 シ各位ヲ慰問センカ為メナリ今次各位ノ韓人ノ

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 17 1478 0111

為生命ヲ慘殺セラレ取物ヲ掠奪セラレニ至リタ
 ル原因ハ萬里山事件ナル一小問題ノ為ナルニ名
 日本新聞ハ謠言ヲ造リテ韓人ヲ使嗾シテ慘害
 虜掠等種々ハ予後ヲ肆行セシメタルナリ之ニ對シ
 我等ハ省城ニ於テ數次市會ニ避難同胞ノ苦痛
 ヲ思ヒ今日未安シタルナリ今次ノ事ニ見ルモ我等
 ハ國家アルヲ喜ハサルヘカラス然ラサルハ王縣長モ
 張公安局長モ又各士紳モ此ノ如ク各位ヲ救恤シ
 能ハサルヘシ食住極メテ困滿ナリ若シ韓人日人
 ニ殺戮セラレタリトセハ何レノ地ニ命ヲ全フシ得ルヤ
 各位ハ今後朝鮮ニ歸リ如何ナル事業ニ從事ス
 ルヲ蒞セス第一ニ韓人ハ吾等ヲ害シタル仇人ナル

在安東日本領事館

S. 1.1.1.0 17 1479 0112



37

ラ忘ルヘカラス其ニ國家ヲ忘ルヘカラス今後團結シテ起々時機アルヲ待ツテ國家ノ為犠牲タルヘシ其ニ吾等ニ害ヲ加ヘタルモノハ既ニ失敗シタリ世界各國ハ總テ日本警察ハ力量アリテ能ク各國在留民ヲ保護スルヲ得ト稱シ日方自ラモ之ヲ稱シ未タリタル處ナリ今次鮮人ノ暴動ハ彼ノ使噓ミタルモノナリ若シ然ラストセハ彼ノ警察ハ無カナリ以テ各國在留民ヲ保護スルニ足ラス當然各國ハ派兵ニテ自ラ保護スルニ至ルヘシ此ノ點ヨリ見レハ彼ノ失敗ニアラスヤ云々ト

今日今報ハ「今回ノ衝突事件ニ日本ハ鮮人ヲ使噓シ居ルヲ以テ海外同胞ハ一致政府ノ交渉ヲ後援

在安東日本領事館

0113

S 1.1.1.0 17 1480

スレト題シ次ノ如ク論ス

日本大陸政策ニ盡カシ滿蒙併吞ノ意志ハ現在ニ非ス今回萬宝山事件發生ニ未タ一日ナラスレテ朝鮮ノ排華暴動ハ殆ント全鮮ニ亘リ京城仁川平壤等ノ各所ニ起リ中國居留民ノ死傷者數百名ニ達シ且大ノ財産損害ヲ蒙リ悲慘ナルコト見ルニ忍ヒス凡ソ我同胞ノ痛憤ハ深刻ナルヲ夫レ萬宝山事件ハ即チ鮮人ノ水道ヲ強行シタルヲ日本側ハ黙認スルノミナラス鮮人ヲ使噓セリ日本側ノ言フ所ニ依レハ鮮人暴動ハ日本側ノ使噓シタルモノニ非スト雖我中國人ハ唯一人トシテ信スル者ナシ朝鮮排華暴動ハ若シ日本側カ迅速ニ善

在安東日本領事館

0114

S 1.1.1.0 17 1481

備に嚴重に警戒ラスレハ決シテ斯ノ如キ事件ヲ惹起
セス同胞ハ根本ヨリ心ヲ一致奮起シ政府ノ交渉ヲ
後援シ日本側ニ對シ今後暴行セサルコトヲ誓
ハシメ謝罪賠償及今後此ノ保証ヲ為サシムヘシ
云々

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 17 1482

0115

REEL No. A-0064

0058

アジア歴史資料センター

皇朝報社
關機高第 六九四一號ノ二番

昭和六年七月三十日

關東廳警務局長

昭和六年八月 五日接受

拓務	次官	殿
外務	次官	殿
内務	次官	殿
警務	次官	殿
朝鮮	總務局長	殿
警務	局長	殿
朝鮮	局長	殿
警務	局長	殿

萬朝報社ノ鮮支事情調査隊ノ動靜

(參照七月二十八日關機高第 六九七〇號)

萬朝報社長長谷川善治江連力一郎大日本公道會員跡部歸巳男等ヲ以テ組織スル鮮支事情調査隊ハ本月二十五日午前六時四十分奉天着列車ニテ大連ヨリ來奉瀋陽館ニ投宿セルカ長谷川善治ハ一行ト別レ向

日午前九時發安奉線ニテ朝鮮經由歸途ニ就キタルカ跡部歸巳男ハ「最近外務當局ノ對外政策ハ總テニ消極的ナリ」ト非難シ陸軍側ノ比較的強硬態度ナルコト並ニ故田中首相ヲ賞讃シ居タリ

尙本名等ハ外務省(氏名明ナラス)某人ヨリ林總領事宛及菊地中將ヨリ森島領事宛ノ添書ヲ所持シ二十五日午後總領事館ヲ訪問シタル後市内演藝館主身上市太郎ヲ訪問シタルカ同人宅ニ於テ國粹會副部長小谷健吉等ト會見時局問題ニ付キ意見ノ交換ヲ爲シ行詰レル滿蒙政策ノ打開ハ積極方針確立ニ依ルノ外ナキ旨ヲ高唱シタリト

追テ本名等ハ本月二十六日午後三時三十六分發列車ニテ長春ニ向ヒタルカ長春哈爾濱吉林等ヲ視察ノ上歸京スル豫定ナリト云フ

以上

S 1.1.1.0-17

1484

0117

1483

S 1.1.1.0-17

0116



昭和六年七月卅壹日接獲

裏松研究會常務、朝鮮視察、就テ

報告紙張

研究會ノ常務委員裏松友光ハ本月十四日私用ヲ兼テ單
 身東京發朝鮮ニ赴キ同地ニ於ケル鮮人騷擾事件調査ノ為メ
 仁川、京城、平壤、大邱等ヲ經テ昨二十九日帰京セルカ研究
 會幹部ニ對シ報告セル概要ヲ探聞スルニ左ノ通りナリト云フ、
 一、仁川ニハ支那人ガ集團的ニ居住スルモノ約六千人アリ飲食物雜貨
 等ヲ高價ニアルカ鮮人商人ヲ價格低廉ナル為販路廣ク成績良
 好ナル為鮮人ハ常ニ反感ヲ壞キ機會ヲ待チツアリタル此ノ度
 萬宝山事件ヲ惹起セルヲ好機會ニ支那人ノ襲撃ヲ為シタルモノ
 一、京城、平壤等ニ居住セル支那人ハ集團ヲ為サズ諸所ニ散在セルモ

ノニテ職業モ多種ニ涉リ殊ニ支那人勞働者ノ勞賃モ鮮人ヲ
 モ安キ為メ同地ニ於テハ主トシテ勞働者側カ騷キ出シタルモノ、如シ
 三、襲撃ヲ惹起スルニ至ル迄官憲カ不用意ニシテ警戒上手落アリシ
 ト思料セラレタリ其ノ初メ仁川ニ騷擾ヲ惹起セルニ拘ラス京城、平壤
 等ニ於テハ何等警戒ノ手ヲ施サ、リシ為同地方ニ於テハ何レモ夜
 半ノ一時ヨリ三時ノ深夜ニ於テ事件ヲ起シ居レリ
 四、損害賠償額ニ就テハ支那側ノ見積ト甚シク相遠シ居ル為今后ノ
 交渉ハ頗ル難事ナルヘシ
 五、目下被害者ノ大半ハ居住地ニ帰復シ平靜ニ歸レツ、アリ勞働
 者其ノ他ノモノニ對シテハ未タ保護收容中ノモノモアリ負傷者ニ
 對シテハ病院ニ收容シ手厚キ保護ヲ加ヘツ、アリ云々

以上

大の
高秘第二三三二號

昭和六年七月三十日

昭和六年七月廿壹日接覽

0119

一

裏松研究會常務、朝鮮視察、就テ

警報送附

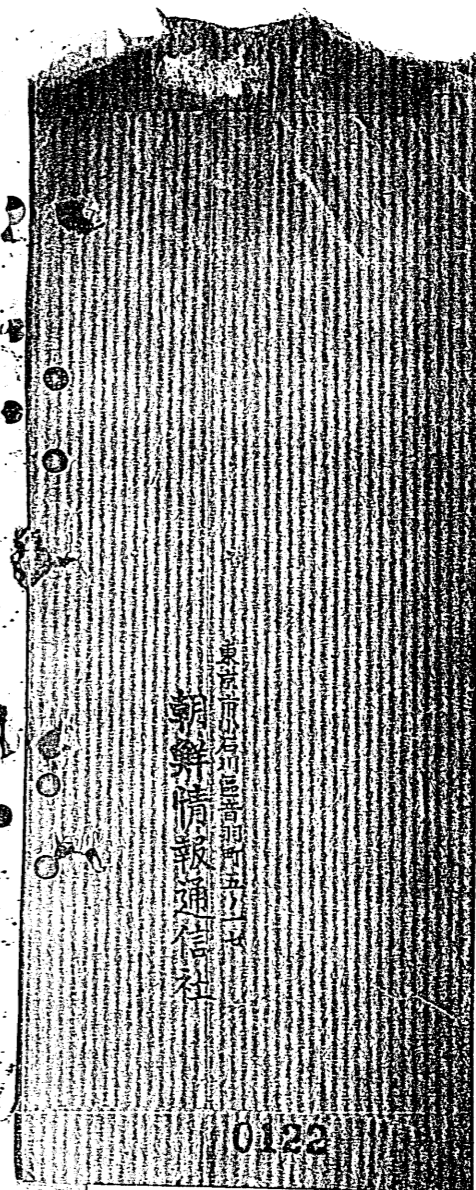
研究會ノ常務委員裏松友光ハ本月十四日私用ヲ兼不單
 身東亞護朝鮮ニ赴キ同地ニ於ケル鮮人騷擾事件調査ノ為メ
 仁川、京城、平壤、大邱等ヲ經テ昨二十九日帰京セルカ研究
 會幹部ニ對シ報告セル概要ヲ探聞スルニ左ノ通りナリト云フ、
 一、仁川ニハ支那人カ集団的ニ居住スルモノ約六千人アリ飲食食物雜貨
 等ヲ高ヒツ、アルカ鮮人商人ヨリ價格低廉ナル為販路廣ク成績良
 好ナル為鮮人ハ常ニ反感ヲ壞キ機會ヲ待テアリタルニ此ノ度
 萬宝山事件ヲ惹起セルヲ好機會ニ支那人ノ襲撃ヲ為シタルモノ
 二、京城、平壤等ニ居住セル支那人ハ集団ヲ為サズ諸所ニ散在セルニ

S 1.1.1.0. 17 1487.

一、ニレテ職業モ多種ニ涉リ殊ニ支那人勞働者ノ勞賃モ鮮人ヨリ
 モ安キ為メ同地ニ於テハ主トシテ勞働者側カ騷キ出シタルモノ、如シ
 三、襲撃ヲ惹起スルニ至ル迄官憲カ不用意ニシテ警戒上テ落アリシ
 ト思料セラレ、其ノ初メ仁川ニ騷擾ヲ惹起セルニ拘ラス京城、平壤
 等ニ於テハ何等警戒ノ手ヲ施サ、リレ為同地方ニ於テハ何レモ夜
 半ノ一時ヨリ三時ノ深夜ニ於テ事件ヲ起シ居レリ
 四、損害賠償額ニ就テハ支那側ノ見積ト甚シク相遠シ居ル為今ノ后ノ
 交渉ハ頗ル難事ナルヘシ
 五、目下被害者ノ大半ハ居住地ニ帰復シ平聲ニ歸レツ、アリ勞働
 者其ノ他ノモノニ對シテハ未タ保護收容中ノモノモアリ負傷者ニ
 對シテハ病院ニ收容シ手厚キ保護ヲ加ヘツ、アリ云々

S 1.1.1.0. 17 1488.

以上



支那の抗議に抗議す

支那の野郎たち何にせぬかしやるんだ！

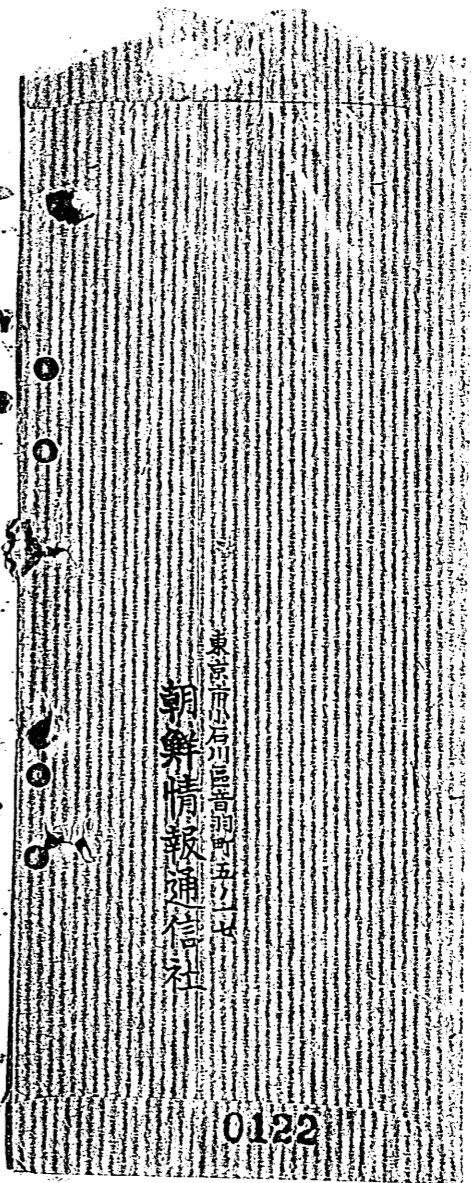
支那の野郎たち何にせぬかしやるんだ！

0120

支那の野郎たち何にせぬかしやるんだ！ 俺達の同胞は、過去六年間滿洲でどんな難いめにあつてゐるんだ！
袁世凱の政府は、公然と極端二百萬の俺達の同胞に、無条件即時撤兵命令を下して、ちやないか。言語にありあまる法外な作つて、官憲が公然と我民を捕縛し、一箇に組んで、死をふるつて俺達の同胞を片端しから追ひだしてはなばな

18 1.1.1910 17 1489





東京市小石川區音羽町五丁目一
朝鮮情報通信社

0122

支那の抗議に抗議す

鄭然夫

0120

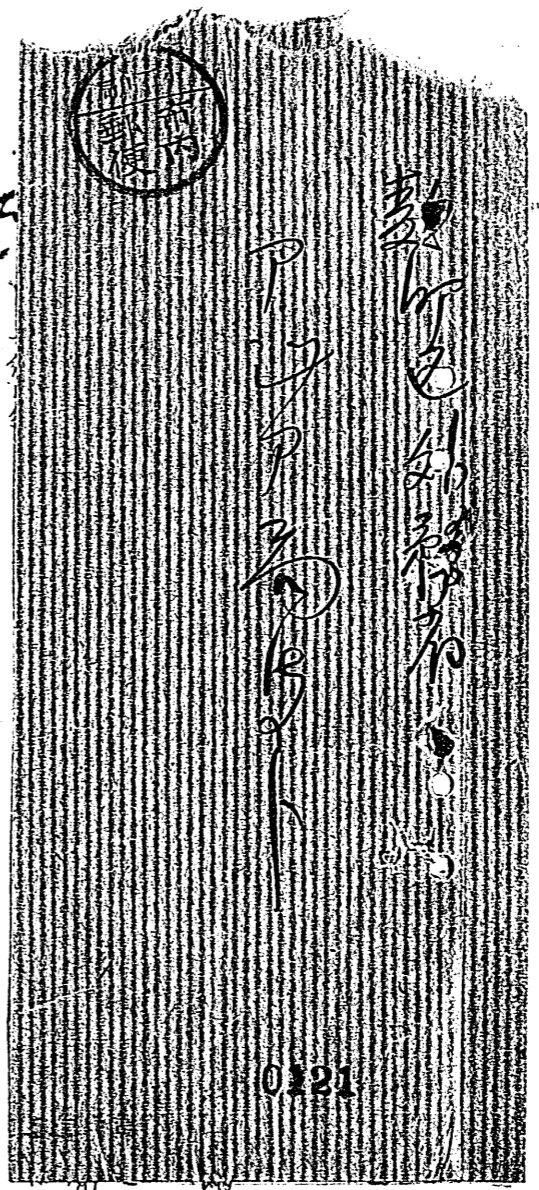
支那の野郎たち何にせぬかしやがるんだ！ 倭寇の同胞は、過去六年間滿洲
でどんな酷いめにあつてゐるんだ！

袁世凱の政府は、公使と在滿二百萬の倭寇の同胞に、無条件即時撤兵命令を下
してやるやないか。言語にありあまる法律を作つて、官憲が公使と暴民を煽動
し、偽に組んで、兇悪をふるつて倭寇の同胞を片端しから追ひだしてはな
いか。

既に袁世凱の兇刃に斃れた倭寇の同胞の數五千五百人、跛り蹴り蹴り蹴り蹴り
重傷を負つた者の數十萬人、罪なき罪に獄にぶちこまれた者の數一萬人、苦
勞汗と血で得た家財道具をぶちこわされて叩き出された者の數二十萬人、
財産を掠奪された總額一千萬圓、非道きはまる驅逐命令をせられて、暴行脅迫
を受けた者の總進人数千五百萬人、この二十世紀に蒙奴(奴隸)税を支拂は
ねばならぬ數二十人——兎よ！ 一曰として袁世凱の暴虐と兇悪と掠奪には

S 1.1.1.0 17 1489





いか。
既に貴族等の死及に斃れた僥倖の同胞の數五千五百人、踐ら此蹴ら此斬られて
無残傷を負つた者の數十萬人、罪なき罪に獄にぶちこまれた者の數一萬人、勞
苦汗と血を得た家財道具をぶちこわされて叩き出された者の數二十萬人、
資産を掠奪された他類一千萬人、非道きはまる驅逐命を發せられて、嚴刑苛罰
を受けた者の總進人數千五百萬人、この二十世紀に蒙奴(奴隸)税を支拂は
れ者の數二十人——見よ！——曰として貴族等の暴虐と追害と掠奪にあり

在勅下 洲

0120

S 1.1.1.0 17 1489



や、川をかつた白とではあるが、
細るに徳連が朝鮮で少し愛憎等を知らせたからって、哀憐に文句がへる
道理かい！。しかも川も仁川で支那の奴が、徳連の肉體を一人を殺したこ
とから始まつてるんだ。如何に愛美の愛憎等とはいへ、少しは己をわづら
人の痛さを知れ！。

発行所 小石川と音町三ノ一七
朝鮮情報通信社

0810

S 1.1.1.0 - 17 1490

亞細亞風

特秘收第二三五四號

昭和六年七月三十日

三重縣知事 市村 慶三

昭和六年八月一日發

6.8.19

内務大臣安達謙藏殿
 外務大臣幣原喜重郎殿
 拓務大臣原脩次郎殿
 朝鮮總督府警務局長殿
 各廳府縣長官殿
 朝鮮各道長官殿

中華民國人ニ對シ朝鮮人脅迫事件ニ関スル件
 万宝山事件及朝鮮各地ニ於ケル鮮支人衝突事件ニ関
 シ管下ニ於ケル其後ノ狀況何等不穩ト認ムヘキモノナカリ
 シ此本月二十二日左記ノ如キ支那人ニ對スル脅迫事件アリ
 タリ

記

一 被疑者

本籍 全羅南道麗水郡栗村面吹笛里
 住所 三重縣四日市々西末広町
 仲仕業 前田清亭

権良先

当三十四年

二 犯罪事實

被疑者ハ昭和六年七月二十二日午後六時三十分頃豫
 テ万宝山事件ニ関シ不滿ヲ抱キ居タル此前記日時
 四日市々高砂町支那人理髮業即德福方ニ至リ
 自分等ノ仲間ハ才前ノ國ヲ支那人ニ大分殺サレタカ
 ラ其代リ俺ハ才前ヲ殺シテヤロカト脅迫シタルモノ
 被害者即德福ハ恐怖ノ余リ直チニ表戸ヲ閉シ休業
 セリ

三 被疑者ニ對スル処置

取調ノ結果本件ハ何等多衆ヲ背景トスルモノニ非ス
 目下ノ処他ニ波及スルノ虞ナキモノノ如ク身柄釈放

S 1.1.1.0 - 17 1492

S 1.1.1.0 - 17

1491

0123

近ク一件脅迫被疑事件トシテ送局ノ見込ニ有之
右及申(通)報候也

S 1.1.1.0-17 1493

0124

REEL No. A-0064



アジア歴史資料センター

本信寫送付先
 代理公使、北平、上海、南京、

在漢口日本帝國總領事館
 BH

S 1.1.1.0 - 17 1495 0126

普通第八四二號
 昭和六年七月三十日

在漢口
 總領事 坂根 準三

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

萬寶山事件ニ關スル印刷物送付ノ件

本月十六日發行ノ「東方民族」ハ萬寶山事件關係記事ニ全紙面ヲ費シ居ル處南京方面ノ何レヨリカ無名ニテ當館宛ニ之ヲ五部送付越セルモノアリタルニ付何等御參考迄別添ノ通り一部送付ス

別紙添付

昭和六年八月拾七日接受

在漢口日本總領事館
 B1

S 1.1.1.0 - 17 1494 0125

日宗八又在民怨華僑搶劫我嗚呼感我房屋了

爲求解放東方及全世界被壓迫民族之半月刊

東方民族

第五卷 第十四期

為民族題



中華民國二十七年七月十六日出版

勒司孟辛同志逝世

東方被壓迫民族聯合會最出力之會員勒司孟辛同志於六月二十一日在上海病故聞訊之餘深爲扼腕其生平事略見英文說明因限於篇幅不另譯

The Late Mr. Laohaman Singh

印度健兒又弱一個

編者附識



後遺志同辛孟司勒

韓民慘殺華僑案

倭寇主使暴動演成絕大浩劫

華僑死傷枕藉商店民房全燬

自萬寶山案發生後。朝鮮各地民者幾千人。財產損失。尤不可計算。衆慘殺華僑之事件又相繼而起矣。據最近電訊所傳。華僑死者數百名。傷朝鮮半島之排華暴動。適與民國十六

萬寶山案之起原

年韓民仇殺華人之慘劇。如出一轍。如是待蠻。殘害華僑。中國朝野。莫不憤慨填膺。目前治標辦法。則唯由日本首先制止暴動。否則案情擴大。解決無期。報復頻仍。將無噍類矣。本刊綜合各方最可靠之消息。以事實爲根據。而將此次韓民暴禍之顛末。作公平之評述。俾世界各國明瞭日本借刀殺人之用意所在。而不致爲日人狡詐之宣傳所淆惑耳。

朝鮮之屠殺華僑

萬寶山案。日本人陽假保護華僑之名。陰則煽蕩韓民挑畔。冀使中韓兩族之感情惡化。欲坐收漁夫之利。所幸者。即中國當局之能慎重將事。致日賊無所用其計也。孰料一波未平。一波又起。韓民惑於倭奴片面之詞。厥中殆不無昏瞶憤事者流。霹靂一聲。全韓排華暴動。風起雲湧。致中韓邦交。忽呈僵局。在韓華僑被害之情形。觀以下電訊。可以知之。

自七月三日起。韓民開始毆擊華僑。暴徒二百猛攻華人在韓京之部落。以致華僑被石擊斃者甚夥。商店被搶均受嚴重之損毀。華人在韓京郊外所有之住宅。悉被付之一炬。仁川朝鮮工人。以石擊斃華人飯店。此事爲其他各處中韓衝突之導火線。數千暴徒襲擊華人街市。各持

兩岸數萬畝良田。必遭水災之患。附近中國農民。以事關重大。不得不呈請官廳制止韓民開溝。迨六月八日。由中日當局雙方協定。韓民允先停工。以待此案之付諸公斷。

但韓民因恃有日警掩護。首先爽約失信。仍在挖溝築壩。於是華警前赴長春日領早已派來大批日警守衛。在知照若輩暫勿動工。靜候解決。詎料

者幾千人。財產損失。尤不可計算。衆慘殺華僑之事件又相繼而起矣。據最近電訊所傳。華僑死者數百名。傷朝鮮半島之排華暴動。適與民國十六

南京安仁街二十號東方被壓迫民族聯合會刊贈

鮮 殘 害 華 僑 案 主 動 者 日 本 也 !

長棍短棒。擊斃華僑多人。縱火焚燒華人房屋。全被燬滅。

平壤 朝鮮全國屠殺華僑之慘劇。以距漢城北百五十哩之平壤府爲最。五日夜。有暴徒六千包圍華入市街。各持棍棒拳石。逢人便打。全城風聲鶴唳。草木皆兵。有七小時之久。暴徒携有標明華人所居之詳圖。挨戶搜查。將不幸華人曳至街衢。肆其屠殺。以致華僑慘死者三十七人。重傷者百三十人。華僑四名。因未能逃出華街。被暴徒瞥見。立爲殺斃。商店皆被搶劫。一無所有。房屋則蘸油焚燒。悉成焦土。據日警察署調查。平壤一隅。截至六日止。華僑被殺者八十八人。重傷者百九十二人。商店被劫者二百十四家云云。

開原，仁山，鎮南浦，信義州，元山 各地殘殺事件。不一而足。以路透電所言。全韓遍地。凡爲華僑寄足之所。華人決無不遭韓民毒手者。其真情實況。雖有生花之筆。亦難形容盡致。故不叙引。

就上項種種消息觀之。在韓華僑所蒙生命財產之損失若何。不待智者始辨。吾人對於因萬寶山案而釀起之

韓民加害華僑風潮。認爲韓民確無庸乎如斯兇殘毒辣之手段。萬寶山一事。曲直之誰屬。姑且不論。惟韓民之採取合法手續。以求中韓問題之和平解決。乃爲適當途徑。固何爲而暴動。而排華賊。

日本之主使

此次朝鮮全國之排華運動。明眼人固早知其係日人有組織有步驟之行動。朝鮮人民因已墮入萬劫不復之深淵。其情形自有特殊者在焉。故吾人體貼其境遇之苦。對其屠戮華僑之惡誤行爲。雅不欲加以深究也。第吾人對於朝鮮暴民之爲其不共戴天之仇。甘作爪牙。甘作傀儡。而敢殺華僑生命。而搗毀華商財產。則又不得不爲之扼腕耳。

韓民此真瘋狂之殘殺。日本人爲之背影。固爲百喙莫辨之定論。而日當局尙在高談韓民之排華行爲。全爲中國之壓迫所致。強詞奪理。有如是乎。關於韓民之排華暴動。茲須逐語日當局者。尙有兩點。請更申言之。

其一，日本警察之實力如何。其偵探科之本領如何。人盡知之。日本月三日漢城發生排華風潮以後。仇殺華僑之事。到處皆是。殘忍橫暴。難以加茲。此絕不能視爲偶然之事。以日警之精練強幹而撲滅韓民烏合之暴動。當能易如反掌。何致蔓延全韓。

蓋在韓民未暴發以前。吾人未聞日警有所防範。及事發生。日警雖出面彈壓而阻止無方。聊欲藉此遮蔽天下耳目而已。然此又絕非日警之不能肅清暴動也。特其蓄意使案情擴大耳。甚此理由。賠償華方被害者生命財產之損失及向華政府正式道歉。應歸日政府絕對負責也。

其二，朝鮮暴徒攻擊華僑時。搗毀市政地圖。內載華僑之詳細姓名職銜及住址。按圖索驥。挨戶搜殺。華人不死焉往。此種地圖。乃爲日本官廳所有。而又何人能入於暴民之手。觀此則由日本官廳供給之。蓋亦昭然若揭。日人之用心。非暗中指縱韓民向華人挑畔而何。

日本之陰謀

更有進者。即日人之企圖挑發中韓感情。空覓動機何在。吁。日人之陰謀毒計。路人均知。蓋日本對滿蒙政治的經濟的軍事的種種經營。處心積慮。匪伊朝夕。若曹不過欲利用韓民爲傀儡。擴大萬寶山與朝鮮事件之範圍。覓一藉口以實行增兵滿蒙。窺伺中國東北。藉以貫徹其所謂新滿蒙政策耳。

日本之欲以過贖人口移植東三省。已爲其不易之政策。惟吾人正告汝日人曰。中國永遠不能予汝一寸土地。

且汝在中國已有之租地租界。尤須迅即退還中國。新式飛機。汝有之。探險家。汝亦有之。曷不率領汝過際人口而往南北極發現新地乎。如是。吾人願手送汝之行。倘汝河漢吾言而必與中國斷斷以爭。致時陷中韓於糾紛狀態之中。則堂堂之大中華民國勢難在汝此類癡心病狂之鼠輩長此跳梁。非中國不敢與汝敵也。實以其冠冕堂皇之地位而不屑與汝戰耳。至相當時期。中國領導東方被壓迫民族。團結一致。而與汝帝國主義者以兵戎相見。亦所弗辭。日人乎。日人乎。汝勿再作亞細亞帝國之迷夢。今非其時矣。簡而言之。日本爲促進其帝國主義之利益。而不惜中韓兩國民衆爲之犧牲。如本月初鮮慘殺華僑之劇變。

於中受害者惟中韓兩民族而已。吐氣揚眉喝采叫好者。彼奸猾之日本人也。歐州爲作廣大之宣傳爰從京滬各中西日報蒐集關於萬寶山與朝鮮二案之材料而成上文編者未敢據人之美特此聲名

編者附識

本期英文第三稿「關於印度教育的幾句話」因無編幅下期補譯

The Eastern Peoples

(FORMERLY GHADAR DHANDORA)

A Bi-weekly Devoted To The Salvation Of The Oppressed Peoples Of The East And The World

VOL. V NO. 14 JULY 16 1931. NANKING, CHINA. GRATIS

KOREANS MASSACRING CHINESE AT THE INVESTIGATION OF THE DWARFISH NIPPONESE AN UNPARALLELED TRAGICAL EVENT HUNDREDS OF CHINESE BUTCHERED THOUSANDS WOUNDED SHOPS LOOTED AND HOUSES BURNED

We are very gravely concerned over the rioting Koreans whose savage attacks on Chinese residents resulted in hundreds of deaths and thousands of injuries as well as tremendous property damage. The present massacre of Chinese is a repetition of similar outrages in Korea in 1927 when an anti-Chinese movement broke out and many Chinese were brutally slaughtered. As a natural consequence of the ferocious attitude of Koreans toward Chinese, much popular sensation has ensued here. Until and unless there is immediate cessation of the riotous attacks on Chinese in Korea, any hope entertained for an early amicable settlement of the case will be but an empty dream. In order to enable the whole world to fully understand how the unhappy event originated, we, upon the soundness of all informations obtained from very reliable sources, give below a summary of the whole affair impartially in terms of facts and figures.

Genesis of the Wangpaoshan Incident

The trouble had been brewing for several months but it actually took shape on the first day of this month. A Chinese by the name of Hou leased to the Koreans some 4,000 mow of land at the Wangpaoshan village, near Changohun, Manchuria. The lessees started on May 25th the digging of a channel 20 li long, 30 feet deep and 30 feet wide to connect the said land with I-tung River for purposes of irrigation, the said channel cutting through the fields of many other farmers without previous understanding with the owners. Had the channel been dug according to plans, many Chinese families would have been very badly affected by flood. Therefore the farmers appealed to the Chinese authorities to prevent the Koreans from continuing excavation work and on June 8th an agreement was reached between the Chinese and Japanese authorities, the Koreans promising to stop the construction of the channel and to resort to the matter to arbitration.

Unhappily the Koreans broke the agreement by resuming work under the protection of the Japanese police. When Chinese police were despatched to Wangpaoshan to disperse the Koreans, the Japanese police,

sent by the Japanese Consul at Changohun, had already arrived, thereby encouraging the Koreans in their obstinacy. In addition, the Japanese Consul dispatched a big batch of Koreans into the district, also 50 to 60 plain-clothes policemen with machine-guns, occupying the dwellings of the villagers under the pretext of protecting the said construction work.

Towards the end of June the construction of the said channel being completed, on July 1st Chinese villagers proceeded to fill up the channel, two li long, whereupon the Japanese police fired, injuring two Chinese police. Persuaded by the Chinese police, the increased farmers desisted. On the following two days, singular disturbances occurred but the Chinese authorities counselled patience on the one hand, and endeavored to pacify the populace on the other, seeking an amicable settlement through diplomatic means.

Onslaught On Chinese Throughout Korea
After the Wangpaoshan incident, one day had hardly passed when there were very furious attacks by Koreans on Chinese residents throughout that peninsula, and all of a sudden the Sino-Korean relations have been shrouded in a very gloomy aspect. With regard to the massacre of Chinese by Koreans, the following messages will tell what occurred in the principal cities of Korea:

KEIJO Koreans, after having heard of the Sino-Japanese clash at Wangpaoshan, attacked the Chinese residents in this capital from the afternoon of July 3rd. A group of 200 Koreans stormed Keijo-Nishi-komon-Machi the Chinese quarter of Korea's capital. As a result, many Chinese have been stoned. Homes have been attacked and sacked. Chinese shops have been damaged, in most cases seriously, by the Korean rioters. Houses in which Chinese were residing at Ryuko on the outskirts of Keijo were set afire. Chinese homes and shops were all burned to the ground.

CHEMULPO Korean laborers stoned Chinese restaurants and broke window panes. This incident became a signal for many other clashes between Koreans and Chinese at different places. Tens of thousands Koreans attacked the Chinese quarter. Many Chinese have been beaten to death and great number of houses set afire.

HEIJO The deadliest scene of Korean atrocities was at Heijo, located 150 miles north of Keijo, the capital of Korea. The Korean riot reached a climax on July 5th when a mob of Koreans, 6000 strong, savagely beat Chinese residents of the district. The rioters dragged out the hapless and butchered 37 in the streets, injuring 130 others. The city was for seven hours in a state of pandemonium while the Korean mobs attacked the Chinese with the aid of maps marking the location of Chinese dwellings. Using clubs and stones and other weapons, the Koreans attacked all Chinese in sight. Chinese who had failed

to escape from the Chinese city were found by Koreans and promptly killed. A large Chinese business house at Nishimon-Dori was burned to the ground. About 3,000 Koreans attacked a Chinese factory where the Chinese community had fled for protection. According to the Japanese police report, the figures of casualties at Ping-Yang up to July 6, were 88 Chinese killed, 192 seriously wounded and 214 houses looted. Chinese homes were all razed to the ground.

KOSHU, EITCHO, KAIGAN, SHINGISEHU, GENSAN
In all these localities, violent attacks on Chinese have been too many to be fully enumerated here. According to Reuters message, the Korean rioting occurred throughout Korea at practically every city and town where Chinese resided or had business enterprises.

From the facts and figures, roughly given above, one can very easily visualize the number of Chinese lives lost in the recent anti-Chinese outbreaks in Korea, without taking the loss of property into account. While it is admitted that the Koreans' bloody attacks on Chinese residents in Korea have been a sequel to the Wang-paoshan incident, yet we wonder why the Koreans should resort to such retaliatory measures, without having their case properly settled through the legitimate means. Undisputably there was some well-organized, systematic arrangement on the part of the Japanese, prior to the occurrence of the Korean atrocities. It is really very deplorable that Koreans should allow themselves to be exploited by the Japanese—their irreconcilable enemies—in ruining the Sino-Korean relations by massacring Chinese lives and burning Chinese houses in Korea. In this connection, there are two points which, we believe, the Nipponese would explain to the world if they have stood aloof from the background of the Koreans killing Chinese.

1. The strength of the Japanese police, especially the Special Service with its on-lookers, in the events which have occurred since the third day of this month can never be regarded as an accident. With the skill and strength of the Japanese police, the suppression of Korean riots is as easy as the turning over of a palm. This is not in any way to flatter the Japanese. Beforehand the Japanese police took no precautions. After the riot broke out, they tried to quell the trouble but their efforts proved futile. Not that they were incapable of putting down the riot but that they were intent on making the trouble spread far and wide. Therefore, upon the Japanese violating the duty of fairly indemnifying the Chinese victims and formally apologizing to the Chinese Government.

2. The ringleaders in Pingyang directed their attacks with the aid of maps marking the location of Chinese dwellings. Where and how could the Korean rioters procure these maps? There is no child but knows that only the Japanese authorities are in possession of these maps. It clearly follows that it was the Japanese police or officials who gave these maps to the Korean slayers who searched killing the Chinese from house to house as certainly specified in the maps.

After all, for what purposes should the Japanese foment such disturbances as above referred to? Obviously there has been firm determination on the part of Japan to pursue a relentlessly aggressive policy in respect of affairs in the provinces of Manchuria and in Inner Mongolia. The manifest motive of Japan is to utilize the pretext of the present outbreak in Korea in sending large armies to the Chinese Three Eastern Provinces for the political invasion and economic exploitation of Manchuria in pursuance of the so-called 'New Mongolian-Manchurian Policy'. However, we have to make the selfish Japanese understand that China can never give you an inch of territory, no matter how overpopulated you are. You have

air-ships and explorers. Why can't you go to the polar regions in search of new land? Never think that China will always tolerate your provocations. So far China has not taken an offensive attitude. Not that she is afraid to fight but that she is too honorable to fight with you mean dwarfs. In a word, the recent Sino-Korean trouble is an unalterable symbol of the Japanese malicious design to further their imperialistic interests at the cost of other peoples - Koreans and Chinese.

**THE LATE COMRADE LACHAMAN SINGH
E. O. P. A.'S PROMINENT MEMBER
PASSES AWAY**

The sad news of the death of Comrade Lachaman Singh whose photo appears on the opposite page came as a profound shock to his many com-patriots and friends in this capital. The melancholy event took place on the 21st of last June in Shanghai.

The deceased was born in the village of Bharranah Lahore, India. He came over to China more than two decades ago and by sheer industry and untiring energy, lived a simple, honest and unselfish life in the face of the ever-increasing oppression on the part of the British Imperialists.

He commenced his public career by joining the work of the Eastern Oppressed Peoples' Association since its inception in 1925 at Hankow. As a bona fide patriot and true son of India, he gave this Association not only his services free of charge but also the money he earned by the sweat of his brow during the past twenty years. In 1928 he was the Vice-Chairman of E. O. P. A. which position he held until 1929. His service was in no way inferior to any of his predecessors. In the same year he applied for visa to return to India, but the British Consul rejected his request on no ground whatever. His demise is really a very lamentable loss both to India and E. O. P. A. yet the valuable work he did and the big sacrifice he made on behalf of his long-suffering com-patriots will ever and anon be a stimulant to every Indian resident in China in his fight for Indian National Independence.

EDUCATION IN INDIA

No Mussel Being Without A Liquor Shop Where the Masses Are Taught to Drink

Following is an extract from Mr. K. F. Nariman's address before the Kerala Students' Conference concerning education in India :-

'A few years back when I was a member of that factious body called Legislative Council in Bombay, I enquired of the Hon. Minister of Education whether he did not think it more desirable to introduce in the Schools' and Colleges' curriculum, the lives of great Indian patriots and heroes, it would not be more useful for students to know more about the great men and women of their own Land, rather than be stuffed with such silly stories about kings and queens of Engaland centuries ago. What useful purpose does it serve for our students to know how many wives had King Henry, or what dresses were worn by Queen Elizabeth and how many were her lovers and how gallant was Sir Walter Raleigh etc? Poor Indian Minister was in a very embarrassing position and for a long time hesitated, knowing not what reply to make. Ultimately the European Home Member came to his rescue. The reply was as expected, the lives, speeches and writings of Indian national leaders and heroes is a dangerous study for Indian students and therefore it must be eschewed. It is safer and better for them to know about the false pomp and bogus glory of Great Britain and hence that study must continue.

(To Be Continued)

亞細亞局
朝一第三五六二號

昭和六年七月三十一日

拓務省朝鮮部長

外務省亞細亞局長殿



鮮内ニ於ケル排華暴行事件ニ對スル在上海僭稱臨時
政府ノ策動ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通朝鮮總督府ヨリ通報越候條御参考迄此段及移報候也

昭和六年八月
別紙添附
壹日接受
タイフウイター川條英領事館

拓務省

S 1.1.1.0 - 17 1500

0131